



愛称:クリちゃん

# 栗原おさむNews

市政・市議会レポート

みんなで創ろう みんなの足利

## 記録的な暑さが続きましたがお変わりありませんか

残暑お見舞い申し上げます。

処暑を過ぎてからも『今日も暑いですね』があいさつになるほど、猛暑日と熱帯夜が続き市内でも熱中症により救急搬送された方もおられましたが、皆様にはお変わりなく暑い夏を乗り越えられたものと存じます。

さて、このたび『栗原おさむ News』第10号を発行いたしましたので、是非ご一読いただきたくお届けさせていただきました。



味は抜群！一度ご賞味ください。

◎ヤキソバ焼いて15年

地元の自治会納涼祭でのひとコマです。育成会活動に参加して今年で15年目。お母さん・お父さん達と毎年ワイワイ焼いてます。

(注1)

予算編成が行われる毎年11月上旬に市議会各会派は市長に対し予算要望を行います。

・プール改築は当選直後の平成19年度から要望し続け今年度の工事が決まりました。

・雨の吹き込み対策は平成20年度から要望し今年度の耐震工事にあわせ改修されます。

会派要望の内容は中長期的対応のものが中心になります。

(注2)

昭和43年に建設された鉄筋コンクリート造3階建て 当時の小学校では珍しく他に梁田小(S35)、助戸小(S42)の2校にありました。

(注3)

当時このプールのお陰で山辺小は水泳王国になり好成績を収め県大会にも出場したそうです。プールが出来る前は三栗谷用水の旧沈砂池で水泳の授業をしていたとのことです。

## 山辺小西校舎耐震等工事開始・プール改築決定

栗原おさむは、自身が所属する会派（自民党新誠会）の予算要望(注1)として山辺小学校の西校舎のベランダの雨の吹き込み対策と水泳プール改築を当局に粘り強く要望してまいりましたが、このたび両案件とも予算化され一部工事が始まりました。

### ◎西校舎耐震補強工事等

この校舎は、私が山辺小入学時(S44)にはあったほど古い校舎(注2)で当時は「新校舎」と呼ばれていましたが、ベランダと廊下を兼用する構造で雨や雪が廊下に入り込み安全とは言い切れませんでした。

今回、耐震工事のほか雨や雪の吹き込み対策としてフェンス等の改良と廊下のノンスリップ加工、屋上防水工事も行っております。なお、通気性確保等の関係から廊下は完全密閉ではありません。

### ◎水泳プール改築工事

昭和37年建設(注3)の私と同じ年生まれで今年で48歳のコンクリート製プールです。昭和62年にミニプール及び循環ろ過機を増設しましたが、市内で最も古いプールとなり経年劣化による不都合が生じ、改築(新築)が待たれていました。

詳細設計はこれからですが、市内小学校の直近の新築プールと同等の仕様(ステンレス製プール、更衣室棟完備)を担当課に要望しております。

設置場所は、現在の位置から北側防災倉庫の前あたりに90℃転換させ移動し、職員室から水泳授業の様子が確認できるなど「安全・安心」となります。



ただいま工事中「西校舎」



お疲れ様でした「プール」

(注4)

議会に上程される議案等のうち、議員が条例案を作成し提出したものを「議員提案」といい、市長執行部が提出したものを「市長提案」と分類しています。

(注5)

議会改革を推進するため平成10年に議長の諮問機関として議長を除く全議員で設立されました(理事会に対し全体会と呼んでいます)。

(注6)

全体会の議論をより効率的なものとするため、理事会においてあらかじめ検討事項のたたき台を作成してから全体会に諮ります。

私は4年間理事に就任しています。

(注7)

議会の意思決定に投票による方法があり、記名投票と無記名投票があります。全体会のように法定会議でない場合でもこの手法を援用します。

#### ◎4人削減の賛否

##### ・5月全体会の投票結果

4人削減賛成 14票

2人削減賛成 10票

無効 1票

欠席 1人

##### ・6月議会での表決

賛成議員 24人

反対議員 2人

欠席議員(病欠) 1人

#### ◎こぼれ話

市議会議員研修である市の議員さんから、やっと足利市さんの議員定数に追いついたと思ったらまた削減したんですか。

また、市民から指摘される…???

# 議員定数『4人削減』24人に決定

## ◎議員定数24人で全国最少クラスに

平成22年第3回市議会定例会(6月2日から22日まで)において、議員提案(注4)により『足利市議会議員定数条例について』が提出され賛成多数で可決しました。

これにより議員定数は現在の28人から4人削減の24人となり人口15万人台の自治体の中で最少クラス(埼玉県狭山市議会も24人)の定数となりました。

## ◎公約実現とコスト縮減

私は、前回の選挙の際、「議員定数削減」を皆様にお訴えいたしました。本条例可決により、ようやくお約束を果たすことができたとともに、公言したとおり4人減が実現出来ました。

この議員削減により、議員1人当たりのコストが年間約1千万円、つまり4年間全体で1億6千万円のコスト縮減が見込めます。

## ◎4人削減までの経緯

定数削減は、議会改革推進協議会(注5)において、平成21年度以降に検討することとなっていたため、本年1月に理事会(注6)を開催し「2人減にするのか・4人減にするのか」を全体会の投票により決定することといたしました。

なんとしても4人削減を実現するため、私は理事会において議員の意志と責任の所在を明らかにするためにも無記名投票ではなく『記名投票方式』(注7)にするべきと提案し、これが採用され、5月の全体会において投票の結果4人削減で条例改正案を提出することとなり、6月の本会議において可決されました。

## ◎近隣市の状況は？

(7月末現在 単位：人)

区 分	人口	法定上限数	条例定数	現員数	定数見直し(次回選挙)
足利市	154,832	34	28	28	<b>24</b>
栃木市	142,640	34	31	31	西方町との合併により <b>34</b>
佐野市	124,971	34	28	28	<b>28</b>
小山市	163,889	34	30	30	協議中
桐生市	125,297	34	31	30	<b>24</b>
太田市	219,727	38	38	38	<b>34</b>

## ◎議員定数削減について考える(何をするための議員定数なのか)

現在、全国の自治体の議会は「議員定数削減競争」の中にありますが、実は削減根拠は明確でなく、いわゆる平成の大合併と経済情勢に伴う住民感情を意識しての議員削減であると捉えることが出来ます。この傾向はさらに続くと思われ、削減が進むほど議員にはそれまでの地区代表的な視点に代わり、全市的な広い視点と高度な専門性が必要になり、反面薄れる地区代表の機能は住民参加制度を介した自治体内分権(地区委員会等)により担っていくことになるのではないのでしょうか。

また、定数削減により競争性が高まり議員の質向上と議会の活性化が期待されますが、いずれにしても議会・議員は市民のためにあるべきで議員の適正定数を決定するのは市民のみなさまであり、議員は議会の活性化を考えなければなりません。

# 議会の活性化のための「議会基本条例」勉強会

## ◎これまでの市議会改革を顧みて

平成10年設置の議会改革推進協議会による12年にわたる議会改革では、コスト削減(注8)としては議員定数の削減(H14. 18. 22)、議員報酬の減額(H20)、政務調査費の減額(18. 20. 22)、同マニュアルの策定・改訂(H17. 22)、政治倫理関係としては条例の制定、情報公開としては本会議の実況放送、ホームページの開設他7項目、議会運営としては一問一答方式の一般質問、委員会の公開他3項目を先進的に実施していますが、果たしてこの議会改革が市民のみなさんにどれだけ知られているのでしょうか。

## ◎議会の位置づけ

議会は、二代表性(注9)の一翼を担うことに存在意義があります。この二代表制の問題として独任制の首長(注10)と合議体の議会の対立が問われますが、首長との緊張関係を失ってオール与党態勢となっている議会にこそ問題があります。

議会が動けば動くほど執行部とのあつれきも大きくなりますが、見解の相違を「混乱」「紛糾」と捉えるのではなく、これが二代表制の良いところであり、ここを乗り越えて市民の関心が高まれば、本当の自治が始まるといえるのではないのでしょうか。

## ◎市民と議会の新しい関係

議会は何をやっているのか。議会で議員は何をしているのか。この点が十分に住民に明らかにされていない議会は「議会不要論」「議員不要論」にさらされかねません。

いまや行政(執行部)において、住民参加は進展する一方ですが、議会の住民参加は請願や陳情、公聴人や参考人制度こそありますが一般でなく、気軽に住民が参加しやすい仕組みにより「開かれた議会」「議会の見える化」することが求められています。

## ◎もっと身近な議会へ、もっと確かな議会へ

同じ改革でも行政の改革はいわば公的サービスを効率よく提供することに主眼が置かれ、執行機関と異なる一翼の議事機関の改革は活発な討議をする議会に変わることといえます。さらに議会の様子を積極的に市民に公開し市民の意見を取り入れることこそが議会改革であり、このことを意識しなければ真の議会改革といえないでしょう。

## ◎議会基本条例勉強会スタート

議会改革はゴールではなく、むしろ開かれた議会を継続的に運営するためのスタートであり、そのためにやらなければならない項目が掲げられているものが「議会基本条例」(注11)です。もちろん、条例がなくても先進的に議会運営を行っている議会もありますが、より明確にして義務化する意味でも条例の制定が必要です。

本市議会でも「議会基本条例に関する勉強会」(注12)によりすでに2回の勉強会を実施し議会改革の進むべき方向を検討しています。

(注8)

議員定数削減(人)

H14 32⇒30 △2

H18 30⇒28 △2

H22 28⇒24 △4

議員報酬減額(円)

H20 52万⇒50万

政務調査費減額(円)

H18 120万⇒100万

H20 100万⇒84万

H22 84万⇒72万

(注9)

議会と市長の関係性を表す言葉。ともに選挙で選ばれた住民の代表であり合議制の機関(議会)に対し独任制の機関(首長)が相互牽制する仕組み。

(注10)

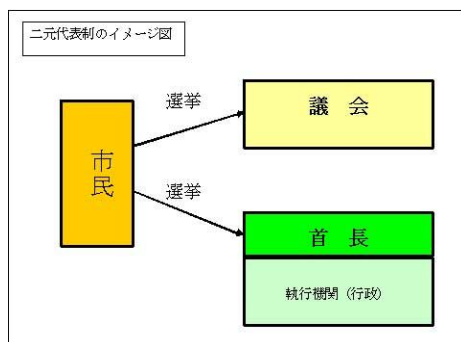
「しゅちょう」と読みますが言葉の上で「くびちょう」と発音するケースが多く、地方自治では地方自治体の長(知事や市町村長)を指します。

(注11)

議会の「憲法」と呼ばれ多くの地方議会でもここ3年間に条例制定が進んでいます。議会間格差が生じつつあります。

(注12)

議会改革推進協議会理事会で栗原が提案し、全体会で「勉強会」発足が決定、世話人(全3人)として企画立案しています。





(注13)

「政務調査費」とは、法律や条例に基づき、地方議員に政策に関する調査研究活動基盤の充実を図るため「調査費」「研究研修費」「広報費」など必要な経費の一部として、議員又は会派に交付されます(足利市議会の場合は議員へ交付)。

平成19年度交付額は対象期間が11月間のため916,000円でした。なお、平成22年度交付額は720,000円に暫定的に減額しております。

### 自民党での活動



松浪健太衆議院議員と



丸川珠代参議院議員と



上野みちこ参議院議員と



ブログ、PC・ケータイ  
アドレスはこちらから

## 栗原おさむの政務調査費使途報告

当選後3年間に交付され確定している政務調査費(注13)の使途について、改めてみなさまにお知らせいたします。交付額は減額され、さらなるコスト削減に努めておりますが、必要な政務調査にはコストを惜しみません。(単位:円)

科 目		平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	主 な 内 容
交 付 金 収 入		916,000	840,000	840,000	市からの交付金
支 出	研究研修費	0	159,310	137,815	議員研修会等の経費
	調査旅費	261,590	259,951	176,424	先進地事例調査の経費
	資料作成費	74,704	74,201	59,001	資料作成印刷費
	資料購入費	491,141	444,171	378,228	参考図書等購読料
	広報公聴費	65,940	295,740	178,620	市政報告ニュース代等
	人件費	0	0	0	
	事務費	281,361	377,162	339,687	事務機リース事務用品代
	その他経費	0	0	0	
	計	1,174,736	1,610,535	1,269,775	年間政務調査費
差し引き残額		△258,736	△770,535	△429,775	個人負担金

## 政治活動報告 by 自民党政治塾受講・対話集会参加

### ◎自由民主党中央政治大学院 修了

自民党県連「青年世代議員の会」第5区常任幹事就任を契機に党本部へ地方議員の現状を訴えとともに国政等を学ぶため「自由民主党中央政治大学院」を受講し修了しました。

講義では谷垣総裁、大島幹事長、石破政調会長ほか現役自民党国会議員のレクチャーを受け、ディスカッションでは多くの地方議員、政治家志望の方々と政策等を議論しました。



### ◎自民党とちぎ未来塾 受講中

自民党県連が党再生プロジェクトの一環として政治家志望者や若手地方議員を対象にした政治や経済等を学ぶための「とちぎ未来塾」を開講。塾生となり現在受講中です。

講義では大学教授や民間の専門家等が講師となり政治学、21世紀の農業、共感力・対話力向上等について学んでいます。写真はオープン講座時の「金 美齢氏」の講演です。



### ◎JIMIN NEXT 青年・女性対話集会 参加

自民党青年局・女性局が主宰した対話集会に参加しました。青年局次長の小泉進次郎衆議院議員、女性局長丸川珠代参議院議員、上野みちこ県議(当時)を向かえた対話集会に参加し、自民党のあり方について意見交換を行いました。



必ず実行します

**見る** 市民の皆様がどのようなことで困っているのか **必ず現場を見に行きます。**

**聞く** 市(行政)に対しどのようなことで困っているのか **必ず要望をお聞きます。**

**言う** 市(行政)の担当部署に皆様の要望を **必ず言いに行きます。**

**答える** 担当部署と話し合った結果を相談者された方へ **必ず答えに行きます。**



栗原おさむ事務所

〒326-0824

足利市八幡町 1-2-8

TEL 0284-72-8292

FAX 0284-73-6681

HANDY 090-1407-6727